

<国際宝飾展 2014>

今年も恒例の同展に参加。出展内容は年毎に多様さを増し、その煩雑さにジュエリーの美しさ、楽しさとは別の違和感のある光景を眺めつつBIZのあるべき姿を想う。黒の壁面にはいがいが水玉のカラーシートにアクリル絵の具の落書き。“これは幼稚園児のお絵かき？”



<何もないということ>

'97年秋のこと“ここは何もないけど”という友人の一言で予備知識も何もないジンバブエ行きを決行。近代先進技術による文化は乏しくても何もないことの素晴らしさを経験したことがある。何もないから感じられることがある。何もないことの裏側には悲惨な慣習、厳しい生活を強いられる現実があることは承知している。いつもの生活、特に東京という場所では1日中音が絶えることもない。TV、人の会話、乗り物などさまざまな雑音、動くもの、色。楽しませてくれる事もあるがそっと静かにしてくれない。そこではそれらに気を取られ大切なことを見過ごし感じ取るチャンスを逃すこともある。何もないところではふと感じる小さな事が大切に思え、見逃していた色々なことに気付く。何もないから心穏やか。



'97年旅行時ジンバブエ

<トラディショナルとトレンドィーのはざま>

衣類でいえばトラディショナル(またはオーソドックス)とトレンドィー(時代にのったもの)がある。私が選ぶのはそのどちらでもない。強いて言えば、ふつうのものでありながらエスプリのきいたもの、かもしれない。若い頃から“はやりもの”に意識はっていない。その時の自分の気持ちに合うもの、それが今も続いている。その購買基準は“軽く10年は着られるもの”ただし時代の雰囲気は小物で表現。その時ジュエリーが活躍してくれる。Tシャツにジャケットでもお気に入りのジュエリーがあればお洒落に精彩を放つ。

現代のジュエリーは、その人らしく、そして楽しく生活の好みに合い、そして何よりその人が安心して自分に自信がもてること。それは上質でなければ叶えられない。ならば何をどう創るか。長い悩みの末に見えてきたものが、単なる思いつきかホンモノか試される時。

<新しい BIZ>



R-0434

ラピスラズリ

ダイア 0.237ct K10

大きめのラピスラズリは
折に応じてその角度を回転。変えることができる。
シンプルモダン、スタイリッシュな大人の一品。



おいしそうで爽やかな半貴石を
たくさん使ったリング兼ペンダント
近頃シマダは

爽やか・シンプル・キラキラにも心よせています。



～春の甲府新作展～

5/15 (木) ～5/18 (日) 10:00～18:00 ギャラリーBIZ